

問題 A

問 1. 老化に伴う口腔機能の変化で適切なものを選びなさい

1. 刺激唾液の増加
2. 咀嚼時間の短縮
3. 味覚閾値の低下
4. 最大咬合力の低下
5. 喉頭侵入頻度の減少

問 2. 間違っているものを選びなさい

1. 「ロコモ」は「骨＋関節＋筋肉」の連動としての運動能力の低下を指す
2. 「サルコペニア」は摂食嚥下障害と関連する
3. 「オーラル・フレイル」は、ロコモやサルコペニアと関連する
4. 「フレイル」は不可逆的である
5. 「サルコペニア」は主に「筋力」の低下を指す

問 3. 出された食事の左半分しか食べない患者の症状をなんという？

1. 右片麻痺
2. 右半側空間無視
3. 右側運動失調
4. 右同名性半盲
5. 右側パーキンソンニズム

問 4. 食欲低下をきたしている未治療のアルツハイマー型認知症患者に使用する治療薬の中で、消化器副作用が比較的低いので推奨される薬剤はどれか？

1. ドネペジル(商品名アリセプトほか)
2. NMDA受容体拮抗薬(商品名メマリー)
3. リバスタチグミン貼付剤(商品名イクセロン・パッチ、リバスタッチ・パッチ)
4. 抗精神病薬(商品名セロクエルほか)
5. ガランタミン(商品名レミニール)

問 5. 唾液の作用に関係ないものはどれか。

1. 菌の抗脱灰
2. 粘膜の湿潤
3. 食物の嚥下
4. 食物の消化
5. 粘膜の角化

問題 A

問 6. 正しい組み合わせを選びなさい

- a. 成人の1日の唾液分泌量は約300mlである
- b. 全唾液の約60%が舌下腺から分泌される
- c. 耳下腺管は咬筋の内側を通過して臼歯部に開口する
- d. 唾石は耳下腺より顎下腺に多くできる
- e. 唾液分泌量の減少はう蝕の原因となる

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

問 7. 摂食嚥下リハビリテーションに関わる専門職の働きについて、誤っているものを選びなさい

1. 摂食嚥下リハビリテーションに関わる各専門職はお互いの専門性を尊重し、協働することが重要である
2. 看護師は医師が作成した嚥下訓練計画書に従って訓練を実施することが役割である
3. 摂食嚥下リハビリテーションのチームリーダーは必ずしも医師とは限らない
4. 患者の入院(入所)している施設以外の専門職も嚥下チームとなり得る
5. 食事へのアプローチはその人の好みやなど食習慣を知ることも重要な援助となる

問 8. 筋と運動神経支配との組み合わせで誤っているものを選びなさい

1. 胸鎖乳突筋----副神経
2. 側頭筋----三叉神経
3. 頬筋----顔面神経
4. 舌筋----舌咽神経
5. 輪状咽頭筋----迷走神経

問 9. パルスオキシメーターによる経皮的動脈血酸素飽和度SpO₂の測定に適した部位を2つ選びなさい

1. 背部
2. 上腕
3. 指先
4. 耳たぶ
5. 大腿部

問題 A

問 10. 摂食嚥下障害の栄養管理上のリスクについて、間違っているものを選びなさい

1. 誤嚥
2. 食べる楽しみの喪失
3. ADLの向上
4. 脱水
5. 低栄養

問 11. 正しいものを選びなさい

1. 栄養障害とは低栄養のみを指す
2. 低栄養だと脳卒中の嚥下障害から回復しづらい
3. 摂食嚥下障害者は排便の調整は特に必要ない
4. 経管栄養患者は強制栄養なのでモニタリングはしなくよい
5. 経口摂取が難しい場合はすぐに静脈栄養に切り替える

問 12. 通常体重50kgだったA子さんは、食事が入らなくなり1ヵ月で5kg体重が減少した。
A子さんの体重減少率は？

1. 5%
2. 10%
3. 15%
4. 20%
5. 25%

問 13. 食事が困難な方へのアプローチについて誤っているものを選びなさい

1. 味覚を刺激することは食事への興味を引き出す一助となる
2. 脱感作は口、頬、肩、手のひらの順で顔の中心から行うと良い
3. 口腔顔面失行がある場合、「口を開けてください」という声掛けが逆効果となる
4. 幻覚がある場合は幻覚の内容を否定しない。
5. 内服薬が摂食嚥下障害を引き起こす場合もある